

微生物の働き

話題の塩麴、お使いですか？



▲柔らかく出来上がった手羽元の塩麴焼き

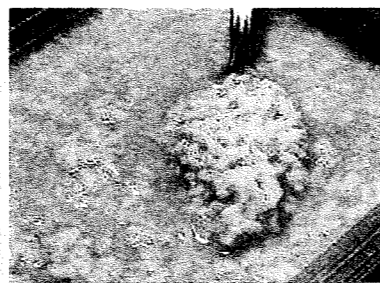
塩麴は、お肉がワンランク上の味に、お味噌汁やスープに入れば深い味わいに、野菜にまぶして漬け物にもなるという万能調味料です。米麴、塩、水をまぜて発酵させただけのシンプルな塩麴。おいしさの秘密は、麴菌から出る酵素がデンプンやタンパク質を糖分、アミノ酸、グルタミン酸などに分解してうまみを引き出すからだそうです。そのアミノ酸やビタミンB類のおかげで、疲労回復、便秘解消、老化予防、美肌効果なども期待できるそうで、いいことづくめです。

麴菌と発酵が塩麴のおいしさのポイント

麴菌は、米、豆、麦など、穀物に発生したカビで、かなり古くから利用されてきたそうです。酒、味噌、醤油、焼酎なども、異なる麴菌を使って作られています。どれも原材料とは違った形や味になり、おいしい食品ばかりです。麴菌以外の菌で発酵させたものに酢や納豆やチーズがあります。鯉節も発酵食品だそうです。発酵食品の特徴は、うまみ成分による美味しさ、栄養価の高さ、保存性の3つだそうです。どうやら発酵食品はおいしくて健康によさそうです。

微生物の働き

麴菌など、微生物の分解を人間の都合で、役立つものであれば「発酵」、有害であれば「腐敗」と呼び分けています。でも、この腐敗は人間にも生態系にも重要な役割を果たしています。植物や動物の死骸、私たち人間の排泄物などを分解してくれ、地球上の物質の循環を作っています。微生物には、ウィルスなどの病原菌などもありますが、この小さな小さな微生物が、地球上のあらゆるところ、私たち人間の腸の中にまでいて、日々働いてくれていることで生態系が成り立っているんですね。



▲塩麴は、最初おかゆ状です

さて、微生物発酵の塩麴、おいしくて、美容・健康にいいとなれば食べないわけにはいきません。料理で使う時は、食材：塩麴＝10：1の割合が最適で、通常使う塩分の4分の1に減らせるそうです。今、米麴は手に入りにくいですが、一度、試してみてください。

参考資料 <http://www.bioc.co.jp/home.html>

《Ms. W》



※もやしもんかほ
おひきせん

今回は、古賀のモノづくりの雄「株正興電機製作所」古賀事業所にお話を伺いに行きました。本社は博多にあり、今年で創業91年の老舗メーカーです。対応して下さったのは、モノづくりセンター長の古賀さんと勤労グループ長の内田さんでした。まず、会社の概要、事業所で作られる製品についてなど、わかりやすく教えていただきました。わくわくするような新技術もたくさんありましたが、配電盤が主要な製品だそうで、「高品質で安全な電気をお届けするための設備や機器・システムの開発・製作が使命」と、会社の責任を強調されました。

正興電機製作所では、毎年、社員とその家族がラブアースクリーンアップに参加され古賀の海岸清掃を行っているそうです。また、年末には社員からの募金とバザー用品の売上金を地域の社会福祉協議会等に寄付されており、会社の地域貢献についてのお考えも伺いました。

また、古賀市内中学のドリームステージ（職場体験）や、高校のインターンシップ受け入れを行い、モノづくりに関する基礎知識の指導をされているそうです。



▲笑顔で答えて下さった 古賀さんと内田さん

未来を創るための決意

お客様に喜ばれ信頼される 製品・サービスを提供しよう

古賀事業所では、ISO14001を認証取得されていて、環境活動の一環として、電力使用量削減に取り組んできた結果、契約電力量を下げる事ができたそうです。省エネ製品の開発などにも力を注がれ、それが社会貢献にもつながると、笑顔で話されました。

《ひら》

次回のエコけん1%クラブ



3月 3日(土) 9:30~11:30(予定) 医王寺山植樹祭

3月 9日(金) 14:30~1時間程度 エコロの森近隣 ごみ拾い



思いを形に

特定非営利活動法人 **エコけん**

〒811-3114 福岡県古賀市舞の里5-24-13

【TEL/FAX】092-944-6450 【E-mail】eco_ecoken@ybb.ne.jp 【URL】http://www10.ocn.ne.jp/~ecoken

福間東中 EJCを終えて



▲合唱の実演

底冷えのする2月10日、福間東中学校のEJC発表会に行ってきました。発表会に参加することで、この1年間の13コース各々の活動の様子を知ることができました。実施中は、いろいろと悩むゲストティーチャーも多かったようですが、発表をみると、実りあるコースばかりだと感じました。スライド発表がほとんどでしたが、中には、ダンス、演劇、合唱の実演もあり、各々に生徒の成長を伺い知ることができました。まちづくり、伝統工芸、福祉、体力作りなど、コース内容は

バラエティに富んだもので、私も参加したくなるものもあったほどです。熱い思いで活動する地域のおとなの姿が、生徒に何らかの形でプラスになって欲しい、と願うばかりです。また、1、2年生にとっては、来年度のコース選択の手がかりにもなったと思います。

エコけん担当のコース、“やさしいエコ”受講の生徒達の感想は、地球環境のことを考えて暮らしている、節電や節水に取り組む、EJCの日が楽しみだったなどあり、多少なりとも“Think globally, Act locally!”の意図が伝わったのではないのでしょうか。来年度も継続されるようなので、今後もエコけんとして関わっていかれたらと思います。



▲“やさしいエコ”の発表

この機会を与えてくださった福間東中学校と福津市郷育カレッジに感謝です。

※EJCとは「福間東中カレッジ」の略で、Eにはenjoy、Jには、joyful、join usの意味が込められています。

《Ms. W》

環づくり 限界集落から考える地域資源再生フォーラム2011

2月19日、環境カウンセラー同期生の島田さんのお招きで、香川県高松市で開かれた「環づくり 限界集落から考える地域資源再生フォーラム2011」の、基調講演を担当してきました。このフォーラムは、島田さんの所属されているNPO法人環境とくしまネットワークが、地球環境基金の助成を受けて開催されたものです。3年にわたる事業の初年度である本年は、フォーラムを迎えるまでの間、8回にもわたり、四国の各地で地域ミーティングを開かれたそうです。最終的には、地域資源再生プログラムの展開を図られる予定とお聞きしています。



最初、お話しをいただいたとき、どうしたらフォーラムの趣旨に沿えるか、あれこれ考え、エコけんとの接点を「地域資源」という言葉にすることにしました。そして、気恥ずかしさを押さえ、「地域資源から 価値生む存在へ」という表題で講演を組み立てました。地域資源とは、自然環境のほか、地域に存在する特徴的なものといわれています。ヒトや、モノ、文化など、有形・無形の様々なものを指すのでしょうか。私たちNPOも、価値を生み出す地域資源でありたいという願いを込めて、これまでの活動の紹介等をするにしました。



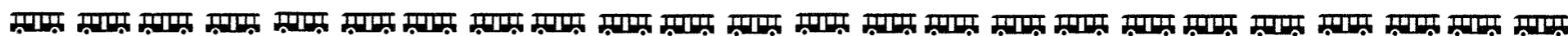
▲熱いグループディスカッション

当日は、前夜からの雪で高速が止まったにもかかわらず、四国各県から地域リーダーさんが集まりました。思わぬ悪天候のため、予定より参加者数は減ったものの、皆さん熱意を持って参加されていました。私もお話しをさせていただいたあとは、パネルディスカッションやグループディスカッションに参加して、皆さんの四国ネットワークづくりへの思いに触れることができました。

エコけんは、活動を始めて、今年13年目を迎えます。ちょっと離れた四国からいただいた今回のお招きは、これまでをふり返り、前へ進む、良い機会であったと感じています。出会って不思議だなあ、大事にしたいなあと改めて思いました。

《S》

古賀市 景観バスツアー参加報告



2月24日(土)古賀市の景観「見どころぐるっと」バスツアーに参加しました。古賀市の代表的景観を回り、時にはボランティアの方の説明を聞きながら2時間半ほどかけて、見学してまわりました。

花見地区の花見松原では、地元で松原の保全活動をしているボランティア団体の方から、松原の成り立ちから現状、活動の様子などをお聞きしました。手入れをしなければ、雑草が入り込み荒れてしまう事や、松葉かきを月1回行うが、人手がたりないなど松原を守るために活動を継続する苦勞なども伺いました。

薦野地区の天降神社と、青柳地区の五所八幡宮は史跡ボランティアの方に説明をしていただき、古賀の成り立ちや今まで知らなかった古賀の良さを発見できました。

その他バスでぐるりと市内を一周し、山と海に囲まれた、自然豊かな地域だという事を再確認できました。また、そこに暮らす方々の地域を守る活動にも、直接ふれることができた気がしました。

今回、「景観」「景観まちづくり」とは何を指すのか、さっぱり解らず、少しでも理解できればと参加しました。参加してみて、自分の住むまちを知る事が、今後どんなまちに住みたいか、次世代に残したい物は何なのか、その為になんかできるかにつながるのだと感じました。この土地のことを知ったり、ボランティア活動をする方のお話を聞くことで、古賀が前より好きになりました。これは景観を考える最初の一步なのだと思います。

《Yっち》



▲史跡ボランティアさんの説明
とてもおもしろかった～